

講義名	教養特講（表計算の活用）			授業形態	
担当教員	木村 敬夫	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

### 主題と概要

「教養特講（表計算の活用）」は所与の「課題解決」に必要なデータを取得し、情報処理技術のひとつ「表計算」（MS-Excel）を利用して、データを整理・分類・集計、グラフ化・図表化等することで可視化・視覚化し、データに説明力を与えて有意な情報に転換させ、これを第三者に「説明」する方法を学修する。  
「教養特講（表計算の活用）」は主に開示・公開されている（オープンソース）「デジタルデータ」（デジタルデータベース）を前提として、NetWork（InterNet）を通して、「データベース」から、与えられた課題に解答（試案）を示すために必要と考えるデータを収集し、選別し、目的に合わせてデータを加工、再構築し、有意義な表現に転換、情報化・可視化する方法を修得することを目標とする。

### 到達目標

「教養特講（表計算の活用）」は、主に、企業・会社に求められる「事業課題」に関連する知見を得るために、企業経営・事業に関連する「データ・資料」から図表化、数的処理・統計的処理を行い、課題解決を提案する。データは事実であって、企業にとって有意味になるためには、分析・解析が必要である。分析・解析には分析・解析方法の知見が必要とする。現在社会経済には統計学、データベース、データサイエンス、データ分析、ビジネスコミュニケーション、経済・経営データ分析・解析などの知見が必須とされる。「データ処理」技術を学修する前提知識を修得し、学修に進むための前段階、入門科目である。

### 提出課題

Portalに講義時間内に行う練習・提出課題が公開される。履修者はこの毎回（講義）出題される課題を処理し、その提出が課せられる。この課題は講義時間内に処理し、提出（プリントアウト）する。

### 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義室で課題処理の解説などを配布する。必要な追加資料も講義室で配布する。

### 評価の基準

課題提出（100%）で評価する。但し、課題提出回数（出席者が全員提出することを想定）の2/3（11回以上）を超えなければ単位認定はできない。また、各提出課題は、誰か第三者に処理を委託することがないように、決められた期日、講義中以外は認めない。

### 履修にあたっての注意・助言他

単に「単位取得」を目的として履修することは避けるべきである。同様な科目から、毎年、半数以上の履修者が途中放棄する。自己学修、やらなければ結果はでないと考えてもらいたい。また、取得するデータがオープンソースであっても、パーソナルデータの保護、取り扱いなどは、倫理・規則の遵守が前提にある。

### 教科書

.使用しない。

### 参考図書


### その他

参考書などを含め、第1回目の講義に際して、解説するが、参考書を掲載したが、價格も、処理水準（関する、マクロ・VBA等）も多岐にわたって出版されている。データ処理は現在社会経済、企業・会社などに必須要因である。当然、情報処理の方法の知識、知見を保有することが企業人・組織人が備えなければならない最低限の技術、知識である。

### 授業計画

- 第1 インTRODクシヨソ
- 第2 Excelの可能性と限界、公開情報
- 第3 Excel：データデース、クロス集計・ピボット、「図表化」
- 第4 Excel：基本集計量、指数と「データ分析」
- 第5 Excel データと関数
- 第6 Excel データと関数
- 第7 Excel データと関数
- 第8 Excel データと関数
- 第9 Excel データと関数
- 第10 「データ分析」分析ツール
- 第11 「データ分析」分析ツール
- 第12 「データ分析」分析ツール
- 第13 ソルバー
- 第14 ソルバー
- 第15 ソルバー

### 授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

### 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

現在社会が否応なくデジタルテクノロジー利用を必然とする社会経済環境にあることから、デジタル難民は「職を得ることが困難な状況を出させてもいる」（スマホはデジタル機器の一つに過ぎない）。職・仕事（収入の種）に求められる知、知識の水準が高くなっている。これまでの仕事がなくなっている。仕事、勤務形態の選択可能性は、デジタル能力の分散から生まれてもいる。「社会経済を分析するツールや創造のためのツール」が使用可能としなければならない時代である。時代の学びの一つがデジタルテクノロジーである。少なくとも所定の復習と次週の課題に関連した予習を前後3日間程度行う。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

データ処理は現在社会経済、企業・会社などに必須要因である。当然、情報処理の方法の知識、知見を保有することが企業人・組織人が備えなければならない最低限の技術、知識である。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

PC通信機能の利用、またPC室内でも口頭で行う。

### 実務経験の有無及び活用

### 備考

講義はPC演習室で行います。このため、履修可能者はPC室のPC設置台数を越えて履修ができません。履修制限数を越えた場合、「抽選」になりますから、履修登録されているかどうか必ず確認して下さい。